

平成17年10月15日現在

## 研 究 業 績 表

森 謙二

| 著書、学術論文等の名称                     | 単著、<br>共著の<br>別 | 発行又は発<br>表の年月<br>(西暦でも<br>可) | 発行所、発表雑誌<br>等又は発表学会等<br>の名称                        | 概 要<br>(共著の場合は該当頁数)                                                                                                                                                 |
|---------------------------------|-----------------|------------------------------|----------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>(著書)</b>                     |                 |                              |                                                    |                                                                                                                                                                     |
| 1. 家格制をめぐって                     | 共著              | 昭和58年2月                      | 黒木三郎先生還暦<br>記念論文集『法とそ<br>の周辺』有斐閣<br>(東京)           | 家格についての用語が、法社会学・社会学・<br>民俗学・歴史学において異なっており、そ<br>の概念を整理したもの。                                                                                                          |
| 2. 『家族・村落・法－教材』                 | 共著              | 昭和58年6月                      | 敬文堂(東京)                                            | 家族と村落についての理論枠組みを初心者<br>用に解説したもの。(平松紘氏と共著)                                                                                                                           |
| 3. カエリムコ(年季婿)習俗に<br>ついて         | 共著              | 昭和63年2月                      | 大竹秀男ほか編<br>『擬制された親子－<br>養子』三省堂(東<br>京)、PP.325      | 大間知篤三は労役婚的な性格をもつ年季婿<br>の習俗が東北地方に分布していることを報告<br>し、その習俗が東北地方の固有な姉家督相<br>続・中継相続の習俗・幼少のアツギを後見<br>する制度に機能変化していることを明らかに<br>した。P.139-P.172                                 |
| 4. 『出作りの里－その民俗と<br>歴史』          | 編著              | 昭和64年5月                      | 新葉社(長野県)、<br>PP.333                                | 本書は、長野県伊那郡清内路村の「調査報<br>告書」と「家とムラ」の社会構造を扱った論考<br>から成り立っている。ここでは社会史的な観<br>点から、清内路において家とムラがどのような<br>存在したかを明らかにすると同時に、上清内<br>路の「一村総墓」の形態の墳墓と下清内路の<br>「同族総墓制」の実態を明らかにした。 |
| 5. 隠居制と家－茨城県北部<br>の隠居慣行を中心として   | 共著              | 平成2年11月                      | 竹田旦編『民俗学<br>の進展と課題』国書<br>刊行会(東京)                   | 茨城県北部は隠居習俗の北限として知られ<br>ている。異世代が別居をするという隠居習俗<br>を社会学・民俗学における学説史を踏まえた<br>上で、江戸時代の宗門改帳および明治期の<br>戸籍簿を通じて隠居習俗の実態を明らかに<br>した。P.113-P.145                                 |
| 6. イデオロギーとしての「祖先<br>祭祀」と「墓」     | 共著              | 平成3年10月                      | 葬送の自由をすす<br>める会編『〈墓〉から<br>の自由』社会評論<br>社(東京)、PP.211 | 家族国家論のなかでは「祖先祭祀」は「国民<br>道徳」として位置づけられ、墓地・墳墓は祖<br>先祭祀の対象と位置づけられた。日本にお<br>ける祖先祭祀の実際と「国民道徳」としての<br>祖先祭祀のズレを問題とした。P.49-P.74                                              |
| 7. 穂積陳重と柳田国男－イデ<br>オロギーとしての祖先祭祀 | 共著              | 平成4年4月                       | 黒木三郎先生古稀<br>記念論文集『現代<br>法社会学の諸問                    | 柳田国男の祖霊信仰論の形成には法学者<br>である穂積陳重の祖先祭祀論があるのでは<br>ないかという仮説を提示した。家の祖先祭祀・                                                                                                  |

|                                   |    |        |                                  |                                                                                                                                                                         |
|-----------------------------------|----|--------|----------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                   |    |        | 題』(上)民事法研究会(東京)、PP.780           | ムラ祭祀(氏神祭祀)・国家祭祀=皇室祭祀を祖先祭祀の枠組みのなかで位置づける思想はすでに穂積のなかで展開されたものであり、柳田はそれを民俗学的に発展させたものとする仮説を提示した。P.83-P.109                                                                    |
| 8. 明治初年の墓地及び埋葬に関する法制の展開ー祖先祭祀との関連で | 共著 | 平成5年1月 | 藤井正雄ほか編『家族と墓』早稲田大学出版部(東京)、PP.318 | 明治初年には、①地租改正との関連で、②都市計画の関連で、③公衆衛生政策との関連で、④祖先祭祀との関連で、墓地政策が展開する。明治初年に墓地にたいする大きな変革があったという観点から、明治初年から明治17年の「墓地及埋葬取締規則」が制定されるまでの過程を、太政類典などの資料を用いて明らかにしたものである。 P.197-P.229    |
| 9. 『墓と葬送の社会史』                     | 単著 | 平成5年6月 | 講談社(東京)、PP.268                   | 墓地の歴史を比較社会史的に明らかにし、伝統的な墓制の多様性についても明らかにした。また、現代の墓地或いはそれを取り巻く問題にはどのようなものがあるかをあきらかにし、家族構造の変化が墓地の継承を困難にし、葬送・墓制に関しても多くの人々から多様な要求が行われていることも明らかにし、墓地政策に関する新たな観点の必要性を訴えた。(現代新書) |
| 10. 家族と墓をめぐる一考察                   | 共著 | 平成5年9月 | 獨協大学編『市民社会と法律』獨協大学(埼玉)、PP.253    | 「墓は不融通物か」という議論を巡って、明治初年から明治民法形成時の法制を中心に検討し、明治初年段階では、墓をどのようなものとして認識していたかについて検討した。P.173-P.196                                                                             |
| 11. 墓と社会集団                        | 共著 | 平成6年6月 | 佐々木宏幹・村武精一編『宗教人類学』新曜社(東京)、PP.278 | 墓と共同体の関連について言及したもの。人の死は共同体に関わる問題であり、墓も必ずしも家族を単位としたものではなく、家族を含めた共同体(Gemeinschaft)を単位として建立されていることを問題とした。P.68-P.78                                                         |
| 12. 『自分らしい最後を決めておく本』              | 監修 | 平成7年2月 | PHP研究所(東京)、PP.224                | 現代、葬儀や墓で何が問題になっているかという問題に関し、その処方箋について書いたものを監修した。                                                                                                                        |
| 13. 明治初年の服忌・服喪ー一つの覚書として           | 共著 | 平成9年   | 『服忌・穢れ・死』(仮称)早稲田大学出版部(東京) pp.    | 明治初年の「近代化」政策のなかで、穢れに関する法制度を解除していく明治国家の服忌に関する法制の歴史を明らかにした。                                                                                                               |
| 14. 相続・継承と家                       | 共著 | 平成9年   | 『日本民俗学講座』(仮称)雄山閣(東京)             | 相続と継承の問題に関し、両者の違いを前提にして、その多様な習俗を整理したもの。                                                                                                                                 |
| 15. 祭祀条項と墓地の継承                    | 共著 | 平成9年   | 石川利夫先生追悼                         | 民法の祭祀条項と墓地承継の在り方について                                                                                                                                                    |

|                                |    |             |                                            |                                                                                                              |
|--------------------------------|----|-------------|--------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 16.『吐山の墓制－墓と祖先祭祀についての法社会学的研究』  | 単著 | 平成9年3月      | 記念論文集<br>文部省科学研究費補助金報告書                    | での議論したもの。<br>一般研究(c)課題番号06620010奈良県山辺郡都祁村での墳墓建立に關しての実態調査。吐山の全墓石のデータベースを作成し、家墓の建立時期などの分析を行った。                 |
| 17.「共同体(ムラ)祭祀・宮座・個人」の法社会史的考察」( | 共著 | 平成10年7月     | 高橋統一先生古希記念論文集『性と年齢の人類学』.岩田書院(東京)           | 奈良県山辺郡都祁村の宮座を中心に、宮座がどのような原理によって構成され、明治初年にどのように変質したか、について考察した。(p.69～p.103)                                    |
| 18.『墓地に関する意識調査』                | 共著 | 平成10年8月     | 厚生省厚生科学研究(自家製・茨城)                          | 研究代表者として、少子高齢化社会の中での墓地のあり方についての意識調査を全国規模で実施した報告書                                                             |
| 19. 葬送と社会集団                    | 共著 | 平成11年       | 新谷尚紀編『講座人間と環境9 死後の環境－他界への準備』昭和堂(京都)        | 埋葬・葬送の意味を確かめながら、埋葬・墓がどのような社会集団によって担われているかを問題にした。また、近代の日本人が受容した火葬の文化についても研究した。                                |
| 20.『名前と家族－名づけの家族史』             | 編集 | 平成11年6月     | 弘文堂(東京)                                    | 上野和男と共編。比較家族史学会の研究大会「名前と家族」のシンポジウムの成果を刊行した。                                                                  |
| 21.『墓と葬送の現代－祖先祭祀から葬送の自由』へ      | 単著 | 平成12年7月     | 東京堂出版(東京)                                  | 現代の墓地問題についてまとめる。(1)現行の墓地埋葬法の問題、(2)葬送をめぐる現代現象とその問題点、(3)祭祀条項が問題解決のネックになっていることを指摘した。                            |
| 22. 近代の家－日本型近代家族論へのプロローグ       | 編著 | 平成12年7月     | 江守五夫先生古希記念論文集『歴史と民族における家族と結婚』第一書房(東京)      | 日本の家に関する学説を整理しながら、祖先祭祀の機能を組み込んだ日本型近代家族の特徴は何かを明らかにする。p.86～p.133。本全体の編集については、宮良高弘との共編                          |
| 23.『老熟の力－豊かな「老い」を求めて』          | 編集 | 平成12年12月    | 早稲田大学出版部(東京)                               | 平成11年に実施した日本民俗学会50周年記念事業シンポジウム「豊かな「老い」を求めて」(曳舟文化センター)の記録。あとがきを執筆。(宮田登・網野房子と共編)                               |
| 24. 家(家族)と村の法秩序                | 共著 | 平成13年10月20日 | 水林彪・大津透・新田一郎「・大藤修編『法社会史』(新体系日本史2)山川出版社(東京) | 明治初年から明治末期までの、穢れに関する法の解除から国家神道体制が末端に浸透する明治末期までの法秩序を法社会史的に考察した。明治国家体制の成立とそれがどのように社会に浸透していった可について論じた。P.368-430 |
| 25.「はしがき」と「住谷一彦の「家族と家」理論」      | 共著 | 平成14年       | 比較家族史学会編『家族・世紀を超えて』日本経済評論社(東京)             | 比較家族史学会20周年を記念したシンポジウム「家族・世紀を超えて」をまとめたもの。所収論文では、住谷一彦の家・家族理論を整理した。p.iii-viii、p.181-191                        |
| 26. 秋田における同族・総墓・               | 共著 | 平成14年1      | 義江明子編『日本                                   | 論文8の再録。社会学のいわゆる「有賀＝喜                                                                                         |

|                                                                  |    |         |                                                                    |                                                                                                                                                                             |
|------------------------------------------------------------------|----|---------|--------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 村落－河辺郡雄和町の事例を中心に                                                 |    | 1月      | 家族史論集7 親族と祖先』吉川弘文館(東京)                                             | 多野論争」を踏まえ、同族集団の実態を明らかにすると同時に、村落と同族集団の関連を明らかにしたものである。①同族集団は本分家の系譜関係に基づいた集団であり、本家の始祖を中心とした祖先を祀る祭祀集団であること、②同族集団の祭祀の中心に墳墓があり、一つの墳墓を同族集団によって共有し(総墓と呼んでいる)など、を実証的に明らかにしたものである。    |
| 27・お墓の制度と現実－お墓革命のはじまり                                            | 共著 | 平成15年   | 小畠宏充編『日本人のお墓』日本石材産業協会(東京)                                          | 明治以降の墓地行政の歴史について概説を加え、現代の墓地行政や墓地の承継などの問題について解説を加えたものp.315-342                                                                                                               |
| 28.『家族革命』                                                        | 編著 | 平成16年   | 弘文堂(東京)                                                            | 岩上真珠・山田昌弘・清水浩昭と共編。家族の個人化の中で皆婚社会と崩壊と少子高齢化社会の中での家族について分析した。p.1-5、p.29-46、p.68-75、p.230-237                                                                                    |
| 29.『少子高齢化社会における「墓地及び墳墓承継に関する法社会学的研究」』                            | 単著 | 平成17年3月 | 平成13年～15年度科学研究補助金(基盤研究(C)(2)研究成果報告書・自家製(茨城・pp.195)                 | 研究代表者(課題番号13620014)として、官報に掲載された無縁墳墓公告のデータ整理を行い、金沢市の無縁墳墓改葬の実態調査、および愛媛県で無縁墳墓及び改葬に関する意識調査を実施し、それをまとめた。                                                                         |
| 30.少子化時代におけるお墓とその継承・戦没者慰霊施設についての国民意識・戦没者慰霊をめぐる意識調査・死者と追悼をめぐる意識調査 | 共著 | 平成17年3月 | 平成14年～16年科学研究補助金基盤研究(A)(1)『死者と追悼をめぐる意識変化-葬送と墓についての総合研究』(仙台・pp.323) | 研究代表者・鈴木岩弓(東北大学大学院・教授)、課題番号14201004。本調査において、変貌する墓地・葬送・慰霊(戦没者慰霊を含む)に関する意識を全国規模で調査した。本報告は、そのデータを整理し分析をした。調査の実施年度は平成15年、標本数2000・有効回答数1409、調査は訪問留置法で行った。P.49-53・P.79-80・p88-134 |
| 31.来間社会の二元的構造とブナカー村落祭祀とヤーマス御願                                    | 共著 | 平成17年3月 | 平成13年～16年科学研究補助金基盤研究(A)(1)『沖縄における近代法の形成と現代における法的諸問題』(沖縄・pp.514)    | 研究代表者・田里修(沖縄大学・教授)、課題番号13302001、沖縄・宮古島来間での調査に基づいて、門中制の基層構造とは何かを問うたもの。村落祭祀と親族祭祀が重層し、多様な社会構造が多元的に存在している様子を実証的に明らかにした。P.310-349                                                |
| <b>(学術論文)</b>                                                    |    |         |                                                                    |                                                                                                                                                                             |
| 1.現代家元制度についての覚書                                                  | 単著 | 昭和46年   | 明治大学大学院紀要 第9集                                                      | 家元は芸を「家芸」として伝承する者あるいは機関であるが、その伝承の担い手である「家」が財団法人となって展開している現実を問題とした。家は多様な形を取って継承されていく。                                                                                        |
| 2. エールリッヒの法社会学の                                                  | 単著 | 昭和48年   | 明治大学大学院紀                                                           | エールリッヒの「生ける法」概念が提唱される                                                                                                                                                       |

|                                      |    |          |                                   |                                                                                                                                                                                              |
|--------------------------------------|----|----------|-----------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 理論的背景についての一考察                        |    |          | 要 第11集                            | 理論的背景について、歴史法学との関わりで整理したもの。                                                                                                                                                                  |
| 3. エールリッヒの「生ける法」概念                   | 単著 | 昭和49年    | 明治大学大学院紀要 第12集                    | エールリッヒの「生ける法」概念について、ドイツの社会学者レーベンダーの議論によりながら整理したもの・                                                                                                                                           |
| 4. 現代の家元制度について<br>一擬似親族集団としての特質とその変化 | 単著 | 昭和52年    | 総合研究「現代における親子の法的社会的問題に関する研究」その(1) | 家元が財団法人となって継承されていく一方で、家元集団が社団法人化し、その免許制度も「恩」や「義理」に基づくようなものではなく、官僚化されたシステムのなかで巨大な企業として展開している現実を明らかにした。                                                                                        |
| 5. 姉家督相続の一考察                         | 単著 | 昭和54年3月  | 法社会学 31号                          | 初生子相続(最初に生まれた子供が女子であったときその女子(長女)に婿をとって家を継承する習俗)とその崩壊過程について茨城県久慈郡里美村を事例として考察したもの。p.117-140                                                                                                    |
| 6. 北関東地方の一村落における隠居制と相続制              | 単著 | 昭和55年5月  | 家族史研究 創刊号                         | 茨城県久慈郡里美村を中心として、東北地方を中心として分布する姉家督(初生子)相続と西南日本を中心として分布する隠居習俗を取り上げ、その両者が並存している社会構造を分析した。p.218-p.251                                                                                            |
| 7. 村落構造と村規約(近代)一資料                   | 共著 | 昭和56年12月 | 茨城キリスト教短期大学紀要 第21号                | 静岡県賀茂郡河津町逆川の区有文書を中心として、近代のムラ規約の状況を明らかにしたもの(青嶋敏と共同執筆)                                                                                                                                         |
| 8. 秋田における同族・総墓・村落一河辺郡雄和町の事例を中心として    | 単著 | 昭和60年12月 | 茨城キリスト教短期大学研究紀要 25号               | この論文は、社会学のいわゆる「有賀=喜多野論争」を踏まえ、同族集団の実態を明らかにすると同時に、村落と同族集団の関連を明らかにしたものである。①同族集団は本分家の系譜関係に基づいた集団であり、本家の始祖を中心とした祖先を祀る祭祀集団であること、②同族集団の祭祀の中心に墳墓があり、一つの墳墓を同族集団が共有する(総墓)など、を実証的に明らかにしたものである。p.41-p.70 |
| 9. 政治学者神島二郎の家族理論一近代日本の家族と家族主義        | 単著 | 昭和61年9月  | 比較家族史研究 創刊号                       | 比較家族史学会での報告要旨。上島次郎の家族・家理論を整理し、報告したもの。p.82-p.86                                                                                                                                               |
| 10. 伝染病と墓地                           | 単著 | 昭和61年    | 家族法研究懇話会報 2号                      | 一般の墓地から伝染病墓地が分離されていく、法的過程を分析した。                                                                                                                                                              |
| 11. 墓をめぐる法と民俗 一覚書                    | 単著 | 昭和62年3月  | 創造 16号                            | なぜ明治初年の墓地法制の研究が必要か、これまでの社会調査の成果を通じて明らかにし、現実の「墓」に関わる習俗とその法制度の歴史の関連について、一つの枠組みを示したものであり、これ以降の「墓」研究の出発点                                                                                         |

|                                    |    |          |               |                                                                                                                                    |
|------------------------------------|----|----------|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12.「死後の離婚」＝帰葬の習俗について               | 単著 | 昭和62年1月  | 比較家族史研究 2号    | <p>になったものである。ここでは、明治初年における墓地法制がこれまでの墓地の習俗に大きな影響を与えたことを明らかにした。P.12-24</p> <p>死後遺体を実家に帰す習俗について、長野県清内路村に残されている文書から家言及した。p.84-p.86</p> |
| 13.「墓」と屋敷地                         | 単著 | 昭和64年12月 | 比較家族史研究 4号    | <p>墓は村落の周辺に置かれるだけではなく、中世以来屋敷地の中に設置される習俗も登場してくる。この屋敷はあの問題について言及した。p.103-107</p>                                                     |
| 14.田沢の民俗                           | 単著 | 平成2年10月  | 北方風土 21号      | <p>秋田県田沢湖町田沢の調査報告書。同族制村落における村落と家族の社会構造を中心に、近代の東北日本の社会構造を社会史・民俗史的観点から明らかにした。 p.5-65</p>                                             |
| 15.国際化する葬儀業界                       | 単著 | 平成3年1月   | SOUGI(葬儀) 創刊号 | <p>ECの統合に伴いヨーロッパでは人的移動が激しくなり、遺体の移動とともに葬儀業界も国を超えて展開するようになった。世界国際葬儀業界の会議=IFTAに参加し、そのレポートをまとめたもの。 p.71-74</p>                         |
| 16.ユーゴスラビアの墓地                      | 単著 | 平成3年4月   | EN21 2号       | <p>ユーゴスラビア(現クロアチア)の墓地についての報告。地中海沿岸の墓地は一般に遺体を埋めるのではなく、一定の空間に安置する形式を多い。P.2-3</p>                                                     |
| 17.「死者の都市」－ウィーン中央墓地－ヨーロッパの葬送・墓制(1) | 単著 | 平成3年9月   | SOUGI(葬儀) 5号  | <p>墓地は「社会の鏡である」という観点から、ヨーロッパの墓地を比較社会史的に検討したもの。日本とヨーロッパの墓地を比較検討するための序説。p.76-80</p>                                                  |
| 18.ハルシュタットの墓制は語る                   | 単著 | 平成3年10月  | 本一読書人の雑誌 10月号 | <p>ハルシュタットはケルト文化が残るオーストリア・ザルツカンマングートの一地域である。ここではいったん土葬をした後それを改葬して遺骨を納骨堂(バインハウス)に納める複葬の習俗があり、それを報告した。p.65-69</p>                    |
| 19.ヨーロッパの火葬－ヨーロッパの葬送・墓制(2)         | 単著 | 平成3年11月  | SOUGI(葬儀) 6号  | <p>ヨーロッパにおいて1960年代以降に火葬を受容したあと、ヨーロッパの埋葬形態がどのように変化していったかについて論じた。ヨーロッパで浸透する火葬について、日本の火葬との比較において比較文化的に考察したものの。p.65-p.69</p>           |
| 20.ヨーロッパの家族墓－ヨーロッパの葬送・墓制(3)        | 単著 | 平成4年1月   | SOUGI(葬儀) 7号  | <p>家族墓は「近代の産物」であるという仮説を前提として、日本における「家族墓(家墓)」とヨーロッパの家族墓の共通性と異質性を検討したもの。p.65-p.69</p>                                                |
| 21.葬送の自由－撒骨をめ                      | 単著 | 平成4年2月   | 本一読書人の雑誌      | <p>平成3年に相模湾沖で実施された撒骨をめ</p>                                                                                                         |

|                              |    |            |                        |                                                                                                                                                                                    |
|------------------------------|----|------------|------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ぐって                          |    |            | 2月号                    | ぐって、そこにどのような問題があるかに言及したもの。                                                                                                                                                         |
| 22.総墓の諸形態と祖先祭祀               | 単著 | 平成4年3月     | 国立歴史民俗博物館研究紀要 41号1     | 日本の伝統的な墓の形態としては家を単位としたものが一般的であると考えられてきた。しかし、墓(墳墓)は地域社会、親族集団(同族)、信仰(檀家)集団を単位として建立されることがあり、このような複数の家々の集団が一つの墳墓を建立する場合、それを「総墓」と名付けた。また、このような墳墓が必ずしも「祖先祭祀」の対象ではないことも明らかにした。p.255-p.314 |
| 23.ヨーロッパの葬送儀礼ーヨーロッパの葬送・墓制(4) | 単著 | 平成4年3月     | SOUGI(葬儀) 8号           | ヨーロッパの葬送習俗について、比較社会史的観点から問題として、多様な習俗が伝承されていることを明らかにした。たとえば、「死者の婚礼」は中国・韓国などにおける死霊婚の習俗と類似するが、ヨーロッパではキリスト教との関連のなかでこの習俗は説明されている。p.65-p.69                                              |
| 24.現代の墓地問題ー福祉政策としての墓地行政      | 単著 | 平成5年11月    | SOUGI(葬儀) 18号          | 家族構造の変化のなかで、家族が墓地の継承者となることが難しくなっている現実を指摘し、福祉政策としての墓地行政が必要であることを指摘した。p.43-p.46                                                                                                      |
| 25.最近の家族論の展開                 | 単著 | 平成6年12月    | 比較家族史研究 9号             | 社会学(女性学を含む)において展開されている家族論について、その意義と問題点を明らかにした。社会規範としての感情(愛情)を問題として、それが家族集団を規制・束縛する論理となっていること、また家族機能が家族集団から解除され、部分的にそれが地域社会のなかに委譲されている現実を指摘した。p.60-68                               |
| 26.村落構造論と共同体論ー川島理論を中心に       | 単著 | 平成8年3月     | 法社会学 48号               | 共同体論の再構築をめざし、近代化論のなかで問題になった共同体論の再検討を行ったもの。今後の研究の準備として書いたもの。p.215-219                                                                                                               |
| 27.近代の「穢れ」ー差別と墓              | 単著 | 平成9年2月     | 部落解放研究 418号            | 日本伝統の「穢れ」観念を前提として、伝染病の忌避など近代化の中で再編成される「穢れ」観念を問題とした(p.199-206)                                                                                                                      |
| 28.現代の墓地経営を問う①～③             | 単著 | 平成11年1月～3月 | 寺門興隆2000年11月号・12月号・1月号 | 現代の墓地問題を、①名義貸し ②営利主義と抱き合わせ販売 ③墓地の永続性などの墓地経営の問題についてまとめたもの。11月号=p.40-47、12月号=p.60-66、1月号=p.92-98                                                                                     |
| 29.老熟の力ーその意味を考えよう            | 単著 | 平成11年12月   | 青少年問題43-12             | 向島の元気な老人達の活動を紹介し、〈老い〉の意味を考えたもの。P.41-46                                                                                                                                             |

|                                                                                |              |                                 |                                                 |                                                                                                                 |
|--------------------------------------------------------------------------------|--------------|---------------------------------|-------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 30.最近の家族研究の動向についての若干のコメント                                                      | 単著           | 平成13年4月                         | 比較家族史研究 15号                                     | 2000年度の家族研究の動向について、高橋朋子『家族団体論』・丸山茂『家族のレギュレーション』・米村千代『家の存続戦略』・山田昌弘『パラサイトシングルの時代』を取り上げて、家族を論じる視座について論じた。P.130-139 |
| 31.彷徨う死者たちー戦没者祭祀と「無縁墳墓」改葬の思想                                                   | 単著           | 平成14年2月                         | 学燈 99巻2号                                        | 慰霊という観点から、現代の死者の有り様について分析をしたもの。社会の中に死者をどのように位置づけるのかを問題にした。p.12-15                                               |
| 32.同族と門中ー比較研究のためのノートとして                                                        | 単著           | 平成15年6月                         | 秋田民俗 29号                                        | 同族と門中の違いについてどのように認識してきたかについて分析し、父系的親族集団の多様性について言及した。p.52-65                                                     |
| 33.全国調査 葬送と墓の意識ーアトツギが決まっているというのが4割という墓意識の揺らぎ                                   | 単著           | 平成15年1月                         | 寺門興隆 2003年11月号                                  | 平成15年に行った墓地と葬送に関しての全国規模の意識調査について分析したもの。墓地の継承に関して不安に感じる人々が毎年増えてきている。p.72-81                                      |
| 34. 墓・家族・市民社会                                                                  | 単著           | 平成17年3月                         | 創造(茨城キリスト教大学(短期大学部) 34号                         | 「祖先祭祀の機能を組み込んだ家族」(日本)と「祖先祭祀の機能を解除した家族」(ヨーロッパ)比較した上で、家族構造の差異が墓制にどのような影響を与えているかについて考察した。P.23-39                   |
| 35.埋葬と法ー家族・市民社会・国家                                                             | 単著           | 平成17年3月                         | 法社会学 62号                                        | 日本社会には「埋葬義務」という観念は根づいていない。なぜ埋葬義務の観念が根づかなかったのか、人間の死は私的枠組みで捉えることがもつ問題点を明らかにした。P.87-98                             |
| 37 家族研究の動向ー森岡清美『華族社会の「家」戦略』(2002)と山田昌弘『希望格差社会』(2004)の書評を通じて                    | 単著           | 平成17年3月                         | 比較家族史研究 19号                                     | 表題の2書を取り上げて、家族研究の視座について論じた。山田はリスク論を家族に適用して近代家族の幾重に言及したのにたし、森岡は上層階層の家族を取り上げて日本の家族=家のあり方に分析した。P.79-96             |
| 38.門中と門中墓ー読谷村楚辺の事例を中心に                                                         | 単著           | 平成17年8月                         | 民俗文化研究 6号                                       | 読谷村楚辺を中心として、門中という親族集団の構成単位が「家」ではないことを前提とし、門中の形成と門中墓の建造と門中の分節化について論じた。P.31-53                                    |
| (その他)<br>[翻訳]<br>M.ミッテラウアー「ヨーロッパ的家族発展ー個人化と自己同一性」<br>『歴史人類学の家族研究ーヨーロッパ比較家族史の課題と | 単著<br><br>翻訳 | 発行年<br><br>平成4年2月<br><br>平成6年3月 | 所収雑誌・書籍<br><br>比較家族史研究6号<br><br>新曜社(東京)、PP. 400 | 概要<br><br>ウィーンでのミッテラウアー講演原稿。翻訳とともに解説も加えた。<br><br>ミッテラウアーの翻訳。第6章「地方誌研究としての家族の社会史」(P. 203~P. 247)を                |

|                                                                                                                        |    |                        |                                    |                                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|------------------------|------------------------------------|----------------------------------------|
| 方法(共訳)』                                                                                                                |    |                        |                                    | 担当。                                    |
| <hr/>                                                                                                                  |    |                        |                                    |                                        |
| 〔書評〕                                                                                                                   |    |                        |                                    |                                        |
| 1.伊藤幹治『家族国家の人類学』                                                                                                       | 単著 | 昭和58年                  | 家族史研究 7号                           |                                        |
| 2.藤井正雄著『骨のフォークロア』                                                                                                      | 単著 | 昭和63年1月                | 比較家族史研究 2号 p.108                   |                                        |
| 3.石川一二夫著『近代日本の名望家と自治一名誉職制度の法社会史的研究』                                                                                    | 単著 | 昭和64年                  | 法社会学 41号 p.228-p.233               |                                        |
| 4.高橋統一著『村落社会の近代化と文化伝統』                                                                                                 | 単著 | 平成8年3月                 | 比較家族史研究 10号                        |                                        |
| 5. 山中永之佑「池敷所有権の帰属について一和泉国大島郡池田村清水池の場合」                                                                                 | 単著 | 平成13年4月                | p.118-p.112<br>法制史研究 50号 p.317-320 |                                        |
| 6.久武綾子著『夫婦別姓-その歴史と背景』                                                                                                  | 単著 | 平成17年3月                | 比較家族史研究 19号 p.74-5                 |                                        |
| 7.井上治代『墓と家族の変容』                                                                                                        | 単著 | 平成17年                  | 家族社会学研究第17号                        |                                        |
| <hr/>                                                                                                                  |    |                        |                                    |                                        |
| 【事典・辞書類】                                                                                                               |    |                        |                                    |                                        |
| 1. 身分階層制                                                                                                               |    |                        | 『百科事典』平凡社(東京)                      |                                        |
| 2.祖先祭祀(明治民法下の祖先祭祀)、隠居、郷墓、家凝集型／家拡散型、家元制度、後見、相本家、キントラクト、不融通物、本家礼、中継相続、アノニウム墓地、入墓規制、死亡届、合葬墓、相続(相続の開始)、擬制的親子関係、死者の婚礼、自葬、墓地 |    | 昭和60年                  | 事典『家族』弘文堂(東京)、pp.1012              | 編集委員・編集事務局長として、項目の選定・執筆者の選定・編集を担当した。執: |
| 3. 服忌・服忌令など                                                                                                            |    | 平成8年1月                 | 『日本史広辞典』山川出版社(東京)                  |                                        |
| 4. 戒能通孝『入会の研究』                                                                                                         |    | 平成9年10月                | 『社会学文献事典』弘文堂(東京)                   |                                        |
| 5・改葬・墓制など                                                                                                              |    | 平成10年2月                | 『日本民俗宗教辞典』東京堂出版(東京)                |                                        |
| 6. 家族国家論・家長・家督・家督相続・冠婚葬祭互助会・契約・系図祭り・財産相続・試験婚・散骨・中継相続・同族神・年期賀・法社会学・労役婚。中                                                |    | 平成10年4月<br><br>平成12年4月 | 『日本民俗学大辞典』吉川弘文堂(東京)                |                                        |

|                                            |            |                      |                           |                                                                               |
|--------------------------------------------|------------|----------------------|---------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 川善之助・川島武宜<br>7. 上野和男・森謙二編『名前と社会—名前の家族史』    |            | 平成16年                | 『文化人類学文献事典』弘文堂(東京)        |                                                                               |
| <hr/>                                      |            |                      |                           |                                                                               |
| <b>【新聞・座談会・対談】</b>                         |            |                      |                           |                                                                               |
| 1. 茨城の民俗ノート(1)～(16)                        | 新聞         | 昭和59年                | いはらき(茨城新聞社)               | 茨城の民俗についての16回の連載                                                              |
| 2. 住谷一彦「共同体論」における「経済と宗教」                   | 座談会        | 平成4年9月               | 綾部恒雄他編『民族学コラージュ』リポポート(東京) | 綾部恒雄(司会)、田中豊治、クライナー・ヨーゼフ・住谷一彦の各氏との座談会<br>テーマ 住谷一彦の「共同体」における「経済と宗教」p.186-p.250 |
| 3. それでもお墓は必要ですか<br>4. 少子化時代の葬送             | 対談<br>新聞   | 平成5年4月<br>平成10年4月15日 | 『現代』4月号<br>読売新聞(夕刊)       | 島田裕巳氏との対談                                                                     |
| 5. 21世紀家族のゆくえ                              | 新聞         | 平成15年1月12日           | 公明新聞(日曜版)                 |                                                                               |
| 6. 比較家族史学会沖縄大会に向けて                         | 新聞         | 平成15年5月23日           | 琉球新報                      |                                                                               |
| 7. 私の郷土紙批評                                 | 新聞         | 平成16年7月～             | 茨城新聞                      | 平成16年7月から月に1回の連載(12月まで)                                                       |
| <hr/>                                      |            |                      |                           |                                                                               |
| <b>【学会報告】</b>                              |            |                      |                           |                                                                               |
| 1. 秋田地方の同族制と総墓                             | 単独         | 昭和57年11月             | 比較家族史研究会                  | 第1回研究懇話会、労音会館                                                                 |
| 2. かえりむこの慣行                                | 単独         | 昭和59年11月             | 比較家族史学会                   | 第6回研究大会、武庫川女子大学                                                               |
| 3. 明治初年の墓地および埋葬に関する法制の展開                   | 単独         | 昭和64年6月              | 比較家族史学会                   | 第15回研究大会、大正大学                                                                 |
| 4. 宮座・トウマイリ・年齢階梯制墓地                        | 共同         | 平成7年5月               | 日本民俗学会                    | 札幌大学                                                                          |
| 5. 村落構造論と共同体論                              | 単独         | 平成7年12月              | 日本法社会学会                   | 1995年度学術大会、日本大学法学部(大宮校舎)                                                      |
| 6. ムラ祭祀と宮座                                 | 単独         | 平成8年6月               | 京都民俗懇話会                   | 第14回大会、仏教大学                                                                   |
| 7. 名前と家族、シンポジウム                            | 共同         | 平成8年11月              | 比較家族史学会                   | 第29回研究大会、明治学院大学                                                               |
| 8. 祖先祭祀の多様性と家                              |            |                      | 日韓家族法学会                   | 松山大学                                                                          |
| 9. ブナカとサニー門中の基層構造                          | 単独         | 平成15年5月              | 比較家族史学会                   | 沖縄大学                                                                          |
| 10. 死と埋葬—祖先祭祀(祭祀条項)との関連で                   | 共同         | 平成16年5月              | 日本法社会学会                   | 立命館大学                                                                         |
| 11. 日本における死者と追悼の現代—少子時代におけるお墓とその継承(全国調査から見 | 単独<br>共同・単 | 平成17年3月              | 国際宗教学宗教史会議・第19回世界大会       | 品川プリンスホテル                                                                     |

|                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| た意識変化)・戦没者施設についての国民意識(全国調査の分析)＝英語                                                                                                                                                                                                                               | 独                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |  |
| <b>【裁判鑑定書】</b><br>平成 12 年(ワ)第 766 号永代<br>使用権等確認事件                                                                                                                                                                                                               | 千葉県地方裁判所松戸支部,平成 13-14 年                                                                                                                                                                                       | 被告側の鑑定人として「鑑定書」(B5-76+26 頁)・原告側「鑑定書」に対しての「反論」(A4-29 頁)を書いた。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |  |
| <b>【社会調査一覧】</b><br>1.茨城県東茨城郡茨城町<br><br>2.茨城県久慈郡里美村<br><br>3.静岡県賀茂郡河津町逆川<br><br>4.秋田県河辺郡雄和町水沢<br><br>5.茨城県水海道市大輪町<br><br>6.石川県珠洲市三崎町大屋<br><br>7.長野県下伊那郡清内路村<br><br>8.秋田県仙北郡田沢湖町田沢<br><br>9.奈良県山辺郡都祁村<br><br>10.三重県志摩郡大王町船越<br><br>11.沖縄県読谷村楚辺<br>12..沖縄県宮古郡下地町来間 | <b>調査時期</b><br>昭和 50 年<br><br>昭和 52 ～ 54 年<br><br>昭和 56 年<br><br>昭和 57 年<br><br>昭和 58 年<br><br>昭和 59 年<br><br>昭和 60 ～ 61 年<br><br>昭和 62 ～ 63 年<br><br>昭和 64 ～平成 8 年<br><br>平成 8 年<br><br>平成 10 年～<br>平成 12 年～ | <b>調査テーマ・報告書など</b><br>テーマ 農家相続 都市化されようとしている農村における農家相続の実態調査(報告「〈都市化〉されつつある農村における農家相続－中間報告」『創造』5 号、1976(P.35-57))<br>テーマ 過疎農村と農家相続／村落構造と家族。報告「過疎農山村と農家相続＝里美村における実態調査報告」『創造』7 号(1978) P.13-40、「北関東地方における村落と家族」－茨城県久慈郡里美村での実態調査報告『創造』9 号(1980) P.45-67。1979 年のこの地域での調査は文部省科学研究費補助金(奨励研究 A)に基づくものである。<br>テーマ 伊豆地方の村落と家族、報告「伊豆地方の村落と家族－静岡県賀茂郡河津町逆川の事例」『創造』11 号(1982) P.50-75<br>テーマ 同族・村落と墓制、報告「秋田県における同族・総墓・村落－河辺郡雄和町の事例を中心として」(前掲、論文 8 を参照)<br>テーマ 茨城県南部の村落と家族、報告「茨城県南部の村落と家族－水海道市大輪町実態調査報告」『創造』13 号(1984) P.83-P.129<br>テーマ 奥能登地方の社会構造、報告「奥能登地方の民俗と社会－石川県珠洲市三崎町大屋地区調査中間報告」『創造』14 号(1985)、P.21.51<br>テーマ 清内路村の社会構造と墓制、この報告は『出作りの里－その民俗と歴史』(前掲、単行本 4 を参照)。この調査は文部省科学研究費補助金一般研究(C)の助成を得た。<br>テーマ 同族制村落の社会構造、報告「田沢の民俗と社会」『創造』17 号(1988) P.13-40、<br>テーマ 宮座・トウマイリ・墓制、報告「都祁村の民俗と社会」『創造』21 号(1990) p.79-120)・23 号(1994) P.95-133・24 号(1995) P.85-118・25 号(1996) P.83-125<br>テーマ 隠居制と年齢階梯制社会 報告「志摩船越の民俗と社会－予備的考察」『創造』26 号(1997)<br>テーマ 沖縄の門中と墓<br>テーマ 沖縄の基層構造と門中、この地域の調査では科研費(A)(1)『沖縄における近代法の形成と現代における法的諸問題』(代表 田里修沖縄大学教授)を受けた。 |  |